

第4回宇都宮市総合計画市民懇談会 会議記録

■ 会議概要

	全体会
日時	平成29年2月16日(木) 13:15~15:30
会場	14D会議室

■ 会議出席状況

1 委員

No.	分科会	所属団体・機関	氏名	備考
1	第1分科会 (健康・福祉・安心・都市経営・自治)	宇都宮大学	石井 大一郎	
2		社会福祉法人宇都宮市社会福祉協議会	大島 一夫	
3		宇都宮市女性団体連絡協議会	金枝 右子	
4		宇都宮共和大学	蟹江 教子	
5		株式会社とちぎテレビ	菊池 幸男	欠席
6		宇都宮市自治会連合会	藤原 由房	
7		公募委員	船津 祥	
8		男女共同参画社会の実現を目指すうつのみや市民会議	三尾谷 文子	
9		一般社団法人宇都宮市医師会	村井 邦彦	
10	第2分科会 (生活環境・都市基盤)	公募委員	小高 記美子	
11		株式会社下野新聞社	高橋 淳	
12		宇都宮市地域まちづくり推進協議会	高橋 勉	
13		一般社団法人栃木県建築士会宇都宮支部	田村 哲男	欠席
14		公益社団法人宇都宮青年会議所	中島 崇	
15		特定非営利活動法人うつのみや環境行動フォーラム	三宅 徹治	
16		宇都宮共和大学	山島 哲夫	
17		宇都宮大学	横尾 昇剛	
18	第3分科会 (教育・学習・文化・産業・経済)	公募委員	荒牧 菜苗	
19		株式会社足利銀行	関野 和則	欠席
20		宇都宮商工会議所	刑部 郁夫	
21		宇都宮市PTA連合会	金田 淳	
22		宇都宮農業協同組合	芝野 三郎	欠席
23		日本労働組合総連合会栃木県連合会 連合栃木宇河地域協議会	清水 正和	
24		株式会社栃木銀行	中野 誠	
25		作新学院大学	渡邊 弘	
26		帝京大学	渡辺 博芳	

※ 分科会ごとに氏名五十音順

2 事務局

総合政策部長, 総合政策部次長, 政策審議室長, 政策審議室総合計画担当主幹,
政策審議室長補佐, 政策審議室係長, 政策審議室担当者

■ 懇談会における主な意見・指摘事項

- ・ 市役所に「地域包括ケア推進室」を設置すると聞いた。縦割りでない連携として一歩進んだと評価している。現場は地域であり、民生委員、社会福祉協議会など、いろいろなところに人材はいるため、地域の社会資源を統合して、地域の中で縦割りでない連携を図ることが大切である。課内の連携だけでなく、課を超えた連携ができるようもう一度強調したい。
- ・ 男女共同参画に防災対策の充実を入れていただきたい。例えば、災害が起きた際の女性の役割の項目など。
- ・ 一昨日の下野新聞に宇都宮市の予算案が掲載された。その中に地域包括ケアシステムの構築として、カッコ書きで新規拡充とある。市の広報には地域支援事業に関する勉強会を地域包括支援センターや自治会を対象に実施すると書いてあるので、実際に実行してほしい。まず、第1層のコーディネート機能を整備するため、早期に協議会を立ち上げていただきたい。その支援の下にコーディネーターを養成し、合わせて地域支援センターで実働部隊となる。協議会を第2層として立ち上げていただきたい。

宇都宮市周辺の地域では高崎市の取組が進んでいる。下野市も最近協議会が始まっており、高根沢も2年前から進んでいる。伊勢崎市もそのような体制が大体できている。宇都宮市もぜひ高齢福祉課の担当者を中心に勉強会を早急にやっていただきたい。ただ市民向けの勉強会ではなく、自治会、民生委員、指導委員、ボランティア団体など具体的な担い手を対象とした勉強会としてほしい。
- ・ 宇都宮大学デザイン科学部の中では、地域と協力して活動をしている。大学と地域が連携して一緒にまちのことを考えることに力を入れ始めている。そうしたボランティアグループやNPOなどは、かなり成長しているが今一つの部分もある。団体への支援のあり方を検討する必要がある。
- ・ 生活環境分野では、環境都市ナンバーワンを目指す取組ができないかとの意見があった。宇都宮市は暮らしやすい都市ランキングでかなり上位に入っているが、実感がない。何か「とがったところ」を作った方が良い。
- ・ 都市基盤では、都市の顔としての魅力（見た目、都市空間など）づくりが重要との意見があった。例えば、LRTや自転車のまちの取組などを活用することが考えられる。
- ・ 第1分科会では、自治会において、できるだけ横断的な活動をすべきとの意見があった。しかし、横の連絡を取るのなかなか難しい。横断的な活動を進める上では情報支援の場が重要である。市の施設も利用率が高く、なかなか使用できないという実態があるが、今後様々な団体、関係者と相談していく必要があると考えている。
- ・ 地域包括ケアの構築に向けては、今後さらに労力が必要になってくる。さまざまな組織で助け合って、支え合っていくことが重要である。組織の代表の間では連携が取れるのだが、組織の内部に話をおろすと「難しい」という話になることがある。そのような風潮を払拭することが必要である。
- ・ 都市基盤については、どういうまちにしたいかのイメージを出すことが重要である。

- ・ 宇都宮市が居住地として選ばれるまちとなることが重要である。転入者に対して、宇都宮市のアピールポイントを紹介した冊子等を配ると良いのではないか。
- ・ 宇都宮市は全体的にイメージは良いが、「これが宇都宮だ」というイメージが足りないと感じる。
- ・ 都市基盤の分野では、車に依存しないという意識転換が重要である。
- ・ 環境の分野では、宇都宮市にはいい水があるという意識など市民の意識改革を行政と連携しながら進めていく必要がある。
- ・ 表現として、「駐車場をうまく活用したまちづくり」とはどのようなイメージかわかりづらいため、「駐車場スペースをうまく活用した」などの表現に修正した方が良い。
- ・ 今回、「横断」のキーワードを強調してほしい。
山形県の上山市では、上山市長が優先的に取り組んでいる施策としてクアオルト事業がある。上山市は、温泉地や豊かな景観資源がある。歩いて健康になろうということで、健康をテーマとしたウォーキングコースが設置されているなど、市、医者、保健士などが一体になって連携しながら取り組んでいる。今の計画の構成は、横のつながりが薄い感じがするため、健康、環境、交通などがうまくつながると良い。
- ・ 学校教育で目標としているのは、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康と体力」である。そして、「確かな学力」の中にさらに3要素がある。それは、「基礎知識・技能」、「問題解決による判断力・思考力・表現力」、「主体的に学ぶ」であるため、学力の定義について修正したほうが良い。
- ・ 用語の使い方として、「ICT技術」は表現としておかしいので、「情報通信技術（ICT）」などに修正した方が良い。また、情報化リテラシーの「化」は不要である。
- ・ 観光に関する意見として、学校教育のスポーツ、文化、学習と観光の連携に関する記述を意見書に反映してほしい。
- ・ 「医療機関」を「医療機関等」にした方が良い。
- ・ 「健康づくりに関する意見」について、企業が健康づくりに参加する事例等もあるため、企業と連携した取組を追加してほしい。
- ・ 「障がい者・障がい児の生活に関する意見」に生活保護者に関する記載がない。生活保護者の雇用の仕組みなどの記載を追加してほしい。
- ・ ICTについては全体をコーディネートする人や仕組みが必要だと思う。
- ・ これからの地域経済の活性化として観光が重要であり、特に観光消費が重要である。しかし、観光振興を担う主体が不在である。「考える人」と「実行する人」が一体となって取り組む必要があり、着地型観光に注目する必要がある。

- ・ 「農林業に関する意見」についてだが、農業の担い手不足に関する意見がなかった。農業の多様な担い手の育成や新規参入者を呼び込むしかけなど担い手の育成の視点からの記述をしてほしい。例えば、クラインガルテンの中から担い手が育っていくような仕組みがあると良い。
- ・ 生活保護、生活貧窮者については、福祉と雇用の両方の分野に記述したほうが良い。
- ・ 青少年の不妊等に関する知識というところで意見がある。一般に性の話はタブー視している部分があるが大切なことである。可能であれば、青少年ではなく、もっと下の年齢の世代から触れるようにしてほしい。また、妊娠・出産などとぼやかしているが、不妊・出産と明確にしてほしい。早い段階から性教育を行うことは、自分の自尊心や他人のことを考えるきっかけになる。また、今の医療では、出産年齢が 40 歳であることも伝える必要がある。
- ・ LGBT に対しても配慮する必要がある。一般には、LGBT の人は人口の 7% であると言われている。LGBT の人を宇都宮市としてどう考えているのかを意見書に反映してほしい。
- ・ 高度経済成長から 80, 90 年代まで、子育ては母親の役割だった。90 年代以降から社会が大きく変化し、共働き前提の社会になった。子育ては、母の役割だけでもない。一方で、行政にだけ任せると財政的に破たんする。子育てはコストがかかる。そう考えると、育児休暇の定着も含め、父、祖父母、地域が協力しないと子どもは増えない。それがないと女性は子どもを産み、育てる気にならないと考える。「子育ては楽しい」という姿を若い世代に見せることが、少子化対策として最も有効である。
- ・ 今後、総合計画を策定するにあたって、NPO など現場で活動する方たちの声を聞く機会を設けることができると良い。また、総合計画の見せ方など新しくチャレンジできたら良いと考える。
- ・ 「子育ては大変だが楽しい」ことを訴えていくことが必要である。また、子育てへの行政支援は、将来の投資という意味もある。財政的に限界があることは理解しているが、やはり手厚い予算を組んでもらいたいと考える。
- ・ 産業の強化の部分では、企業の誘致を推進していく必要がある。働く場所が確保されていないと生活基盤が築けない。企業の誘致をより一層進めてほしい。
- ・ 「第二創業」を後押しするとの記述がある。おそらく新事業のことを指していると思われるが、ゼロから立ち上げるような「創業」の支援について記載してほしい。
- ・ 去年の 10 月に、宇都宮大学で地方創生の講義を行った際、13 人の受講者がいたが、県内からの受講者が 1 人しかいなかった。地元を見つめ直すということに対して、温度差がかなりあると感じた。また、高校生の教育なども大切であると感じる。県外の人からすると宇都宮市には魅力が感じられないようだ。県外から来た人の素直な意見も取り入れて分析し、計画に反映できると良い。また、外国人を対象に「なぜ宇都宮市に来ているのか」などの意見も調査できると良い。
- ・ 将来のまちづくりのイメージは、未来を担う子どもたちが住みたいと思えるかどうかが重要である。

- ・ 横断的な内容が意見として挙げられているが、現実的にはなかなか難しいと考える。未来の子どもたちのために縦割りでやっている場合ではない。一方で、今進んでいるもの、やや進んでいるものなどがあることから、進捗ごとに仕分けして検討していく必要がある。
- ・ 「出来る」を「できる」に統一した方が良い。
- ・ コミュニティスクールの表記が異なっているので修正した方が良い。
- ・ 将来を見通すことが難しい時代になっているため、計画にも柔軟性を持たせることが重要である。その点では、計画を作った後の検証が重要である。
- ・ 総合計画は市民向けだが、外に向けた見せ方、発信の仕方も考えると良い。
- ・ 地域ぐるみで子育てをするというイメージを具体的に出してもらえると良い。
- ・ 主にマイノリティーの問題はなかなか難しい。先ほどの妊娠の意見に対する補足だが、望まない妊娠、性感染症なども含めてもらえると良い。
- ・ とんがった計画やキャッチコピーなどがあるような計画としてほしい。また、策定のプロセスに市民を巻き込むことも重要である。
- ・ 市民の声を入れて計画を策定することが重要である。
- ・ 意見書の内容をすべて10年以内で実施することは簡単ではない。現場主義が重要であり、前文には「関係者は、現場に足を運んで」などの表現を入れてほしい。
- ・ 栃木県は災害が少ないため、市民の危機意識が薄い。例えば、交通の便が良い中心市街地に災害の恐ろしさを体験できるような防災学習の施設があると良い。
- ・ 総合計画は内政的な面が中心になりがちだが、とんがった政策があっても良い。例えば、姉妹都市の取組は既に行われているが、それを経済と絡めるとどうなるかなど考えることができる。観光振興の面で考えると、DMOの話が出てくる。DMOは、行政というよりもむしろ民間が中心になる必要がある。
- ・ カタカナ語が多く、難しい印象がある。日本語になるものは日本語で書いた方が地域に説明しやすい。また、表現も図表を使用するなどわかりやすくしてほしい。
- ・ 今日の計画では、LRTが前面になるだろうと改めて感じている。
- ・ 宇都宮市が100年先も誇れるまちになるためには、都市間競争に勝ち抜き、選ばれるまちにならないといけない。既に、餃子の町、ジャズの町と言われている。本当は世界遺産の登録などができればと思うが、さすがにそれは難しいだろう。一方、ユネスコに創造都市ネットワークの認定というのがある。それなら目指せる可能性があるのではないかと思う。ユネスコに名乗りを上げることを試すと良い。

- ・ 生活保護を受けている人は根気がないと言われることが多いが、以前折り鶴を作る作業に参加してもらったところ、根気の継続ができた。できることからアクションすることが大切である。
- ・ 今日の意見書の案を見て、自分の発言が入っているのがわかった。今後は、周囲に発信できるようにしたい。
- ・ 勝つ都市と負ける都市がはっきりし、住みたいか住みたくないかがいずれわかる。実行力のある計画にしてほしい。